

素案からの変更点について（修正事項一覧表）

参考資料 1

A 本編		第3回審議会でのご意見		参考資料 1
No	ご意見（要旨）	修正前	修正後（2021年1月28日時点）	再修正後（2021年3月26日時点）
1	水洗化率が低いという課題に対して、施策を記載してはどうか。	-	P43に以下の記載を追加 「カ口水洗化向上の促進」 水洗化率の減少が進んでおり、今後も公共下水道整備済区域内における未接続家を対象に、水洗化促進を実施していきます。	-
2	2章については目次である程度ストーリーがつかめるとよい。	第2章下水道事業の現状と課題 1 事業の概要 (1) 阪南市の地理的条件と特色 (2) 下水道事業の概要 エ 下水道の普及状況 (3) 下水道使用料の状況 2 外部環境 (1) 人口と水需要 (2) 大規模地震の発生リスクの増大 (3) 持続可能な開発目標の推進 3 内部環境 (1) 組織の概要 (2) 投資の概要 ア 組織の状況 イ 水洗化の状況 (3) 財政の概要 (4) 経営指標の類似団体比較	第2章 下水道事業の現状と課題 1 事業の概要 (2) 「エ下水道の普及状況」を「2 現状と課題」(1)に移動 2 現状と課題 (外部環境・内部環境の区分を削除) (1) 普及率について (「1 事業の概要」から移動) (2) 人口と水需要の減少 ア 人口の状況（見出し追加） イ 有収水量の状況 (3 内部環境 (2) 投資の概要から移動) ウ 水洗化の状況 (3 内部環境 (2) 投資の概要から移動) (5) 組織と職員の状況 (2 現状と課題内の後半に移動) (6) 大規模地震の発生リスクの増大 (2 現状と課題内の後半に移動) (7) 持続可能な開発目標の推進 (2 現状と課題内の後半に移動) (8) 類似団体比較のまとめ	第2章 下水道事業の現状と課題 1 事業概要 (1) 阪南市の地理的条件と特色 (2) 下水道事業の概要 (3) 下水道使用料の状況 2 現状と課題 (1) 下水道普及率 (2) 人口と水需要の減少 (3) 施設の老朽化 (4) 厳しい財政事情 (5) 組織と職員の状況 (6) 大規模地震の発生リスクの増大 (7) 持続可能な開発目標の推進 (8) 類似団体の比較のまとめ
3	P10 グラフの軸に普及率の名称付す。表記を黒字にする（印刷の問題か確認）。年度表記を合わせる。	-	・黒字・太字に修正 ・「令和●年度」から「R●」に変更	-
4	本編P6と概要版の事業概要の表を合わせる。	-	-	名称の変更（変更前→変更後） ①行政区域内人口→①行政人口 ③下水道処理区域内人口→②処理区域内人口 ⑤普及率→③下水道普及率 ②処理区域内水洗化人口→④水洗化人口 ④処理区域内告示済人口→⑤告示済人口 有収水量→年間有収水量
5	P40「？」が残っている。	-	修正	-
6	P42イ「や」が不要。	-	修正	-
7	はなていの説明（名前等）を入れてはどうか。	-	ハブコメ用のため、一時的に「はなてい」の図を削除しました。	ロゴを追加
8	P42 下水道の見える化の箇所について、例えば、四条畷のHPにはいろいろ記載している。HPの充実化について記載（水洗化の啓蒙、水質管理の注意喚起等）してはどうか。	生涯学習推進室の出前講座メニューや、広報誌等で下水道の利点など注意喚起以外の情報の充実等により、下水道事業に興味を持っていただく機会の増加を図ります。	生涯学習推進室の出前講座メニューや広報誌及びホームページを活用し、 引き続き各種注意喚起を行うとともに、下水道の利点等注意喚起以外の情報の充実等により、市民の皆様が下水道事業に興味を持っていただく機会の増加を図ります。	-
9	P34 次世代につなぐ、ということは次世代に負担を残さない、ということも記載してはどうか。	基本理念を、「次世代へつなぐ下水道」としました。 過去から今へ。今から未来へ。次の世代へ引き継いでいくこと、「つないでいくこと」という意味だけではなく、今、そして未来の人々を繋ぐものであり、下水道と人をつなぐの意味でもあります。	「つなぐ」という言葉には、過去から今へ、そして今から未来へと、次の世代へ引き継いでいくことだけではなく、今と次の世代をつなぎ、下水道と人をつなぐという意味を含めています。そして、次世代に負担を残さず事業を「つなぐ」ため、経営戦略が不可欠となります。	-
10	P36均衡ということばがわかりづらい。P35のことばをなるべく使ってはどうか。「こうすることで収支バランスをはかります」「収支バランスをはかるために・・・」	4章本文2行目 ただし、こうした新規投資と更新投資には多大な資金が必要になるため、「投資試算」（投資事業にかかる費用の見直し）と「財源試算」（下水道使用料収入など財源の見直し）を均衡させることが非常に重要となります。新規投資事業と更新投資事業に必要な財源を確保し、投資試算と財源試算を均衡させるためには、徹底した「計画的かつ効率的な事業推進」に取り組む、事業運営にかかる経常的なコストの削減を進めることで「収支のバランスが取れた経営」を図るとともに、下水道施設や管渠の計画的な新設・更新など「投資の合理化」を進めることが必要となります。 また予防保全による適切な維持管理、災害発生時に備えた取組も重要となります。	ただし、こうした新規投資と更新投資には多大な資金が必要になります。特に新規投資について、市全域の整備を行うことは、人口減少が進む現状においては 困難と見込んでいます 。そのため、投資の方向性を定めた上で、新規投資事業と更新投資事業に必要な財源を確保し、持続可能な下水道事業を実現するための取組が非常に重要となります。 具体的には、徹底して「計画的かつ効率的な事業推進」に取り組む、事業運営にかかる経常的なコストの削減により「収支のバランスが取れた経営」を図るとともに、下水道施設等の計画的な新設・更新等により「投資の合理化」を進めることが必要となります。 また、予防保全による適切な維持管理や、災害発生時に備えた取組も重要となります。	ただし、こうした新規投資と更新投資には多大な資金が必要になります。特に新規投資について、市全域の整備を行うことは、人口減少が進む現状においては 困難であると考えられます 。そのため、投資の方向性を定めた上で、新規投資事業と更新投資事業に必要な財源を確保し、持続可能な下水道事業を実現するための取組が非常に重要となります。 具体的には、徹底して「計画的かつ効率的な事業推進」に取り組む、事業運営にかかる経常的なコストの削減により「収支のバランスが取れた経営」を図るとともに、下水道施設等の計画的な新設・更新等により投資の合理化を進めることが必要となります。 また、予防保全による適切な維持管理や、災害発生時に備えた取組も重要となります。
11	P35収支均等	-	「収支均衡」に修正	-
12	P38 ポンチ絵の図	計画区決定域	「計画決定区域」に修正	-
13	P1 「1行目雨水の排」のあとの空欄削除（右揃え）	-	設定を両端揃えにし、併せて改行時の段落の間隔を調整	-
14	P1 3段落目 「一番遅く」	-	「最も遅く」に修正	-
15	P21「一般的に耐用年数は50年といわれています」について規定されているのではないか。	-	「なお、法令等により標準的耐用年数は50年と規定されていることから」	「法令等で規定されている管渠の標準的な耐用年数は50年とされていますが、」
16	P36 耐震化の箇所 測ります	-	「図ります」に修正	-
17	P37 3段落目 今後の箇所の最後「整備面積」のあとが右揃えになっていない	-	修正	-
18	P2, 5, 8, 911 右揃えになっていない	-	修正	-
19	P7, 12, 14, 20, 21 写真グラフが不明瞭	-	明るさの調整等	・P.6「公共下水道の整備状況」の図 → より明瞭な図に差し替え ・P.7 図3点 → 図の上から文字を記載し、文字の不鮮明さを改善 ・P.7 図の編集に伴い、出典の記載を変更
20	グラフの軸がグレイとなっている	グレイ	黒字に修正	-
21	とじしろが確保できているか最終確認	-	業者に確認中	とじしろに問題ないことを確認
その他の主要な意見			対応	
1	P37 現段階での認可区域外で浄化槽の方針を出しておかないのか。	-	現状の記載のまま（「関係部局と連携」）	-
2	P2の趣旨にある水質保全の話がないのではないか。	-	処理場がないので記載していない。 (P8でカバーできると考えられる。)	-
3	新型コロナで職員が勤務できなくなった場合にどうするか。	-	下水道課のみではなく、市全体の話として整理を行っていく。	-

B		本編	事務局修正		
No	内容	修正前	修正後（2021年1月28日時点）	修正後（2021年3月26日時点）	
1	第2章内の「これまでの取組」及び「課題」の欄の配置を修正	各項目に記載	構成の変更【A-2】に伴う配置転換	—	
2	「●年●月現在」などの表記の統一	・●年3月31日 ・現在	・●年3月31日 ・現在	・●年3月末 → 「年度末」で統一 ・時点 → 総務省の公表物は「時点」の表記が多かったため、「時点」に統一	
3	P5 沿革の修正	コミプラ地区の供用開始年を記載 (平成5年12月…接続 等)	削除	—	
4	P. 6図のタイトルを変更	下水道事業の概要（令和元年度末時点）	下水道事業の概要（令和元年度末時点）	公共下水道事業の概要 (令和元年度末時点)	
5	P15 「大阪府内の他自治体との下水道普及率比較」の追加	記載なし	比較表を記載しました。	—	
6	P. 17 有収水量の現状についての文章を変更	本市の令和元年度の有収水量は 2,390 千㎡であり、有収率は 85.5%ですが、人口減少や省資源化の影響を受け、ここ数年で減少基調にあります。	本市の令和元年度の有収水量は 2,390 千㎡であり、 有収率は 85.5%ですが 、人口減少や省資源化の影響を受け、ここ数年で 減少基調 にあります。	本市の令和元年度の年間有収水量は2,390 千㎡であり、人口減少や省資源化の影響を受け、ここ数年で 横ばい となっています。	
7	P. 23 1行目の収益的収支の説明を変更	1年間の事業活動で発生した使用料収入等の収益と、収入を得るために必要となった費用を表し、その差額は利益となります。	1年間の事業活動で発生した使用料収入等の収益と、 収入を得るために必要となった費用を表し 、その差額は利益となります。	1年間の事業活動で発生した使用料収入等の収益と、 これに対応する費用を表し 、その差額は利益となります。	
8	P. 23 下から9行目の資本的収支の説明を変更	サービスの継続的提供の基礎となる施設への投資及びその財源の収入とその支出を表します。	サービスの継続的提供の基礎となる施設への投資及びその財源の収入とその支出を表します。	施設や管渠等の建設改良及び企業債償還金等の支出と、その財源となる収入を表します。	
9	P. 53見出しを修正	前提条件（財政シミュレーション）	前提条件（財政シミュレーション）	財政試算（シミュレーション）の前提条件	
10	P. 44～ 第4章の各節の見出し名称及び順序を変更	(1) 繰入金の将来推移 (2) 企業債残高の将来推移 (3) 投資の内訳 (4) 人口の見通し (5) 使用料収入の見通し (6) 経費回収率の見通し (7) 経常収支比率の見通し	(1) 人口の見通し (2) 投資の内訳 (3) 繰入金の将来推移 (4) 企業債残高の将来推移 (5) 使用料収入の 見通し (6) 経費回収率の 見通し (7) 経常収支比率の 見通し	(1) 人口の将来推移 (2) 投資内訳の将来推移 (3) 繰入金の将来推移 (4) 企業債の将来推移 (5) 使用料収入の 将来推移 (6) 経費回収率の 将来推移 (7) 経常収支比率の 将来推移	
11	P. 47企業債未償還残高や償還金は利息を含んでいない旨を記載	—	—	以下の一文を最後に追加 「なお、企業債の金額には、支払利息分を含んでいません。」	
12	【グラフ凡例の位置変更】グラフ⑦～⑩	—	【事前配布資料からの変更】	【下から右上に変更】	

C		概要版	第3回審議会でのご意見		
No	ご意見（要旨）	修正前	修正後（2021年1月28日時点）	修正後（2021年3月26日時点）	
1	目次構成に対する説明がなく、説明文の評価がない。	事実関係の列挙のみ。	構成の変更・説明文を記載【D-3】など	—	
2	概要版の②のグラフとP9のグラフが違う。	—	本編P9を概要版のものに揃える	—	
3	概要版で人口減少を示しては（本編P16）。まずはまず経営状況が悪くなることも併せて。	—	人口減少も記載（グラフ） 表現の変更【D-4など】	—	
4	概要版の番号を目次であわせる。「内部環境」とかかれてセクションがわかるように。	—	本編の構成変更に伴い、概要版も見直し【D-4】	—	
5	投資計画については筋道を記載したほうがよいのでは。認可計画のところすべてやるとなると財政が危ういので、この結果になった、という筋道を記載しては。それを絵で示すとポンチ絵になると思うが・・・	—	人口減を踏まえ、市全域を整備することが困難であると考えられ、立地適正化計画も策定されたこともあり、新規投資の方向性とする旨を追記【D-11】	—	
12	【冒頭「はじめに」を追加】	—	【事前配布資料からの変更】	【市長挨拶文の掲載】	

D		概要版	事務局修正	*大幅に修正しているため、概略のみを記載しています。	
No	内容	修正前（第3回審議会資料2）	修正後（2021年1月28日時点）	修正後（2021年3月26日時点）	
1	レイアウト変更	説明文のないグラフがある 等	大幅な変更・グラフの整理	グラフの説明文は左側に統一	
2	グラフの表示を統一	「H、令和」表記が混在	「R」表記の上（西暦年度）【A-3】	—	
3	説明文の変更	各グラフ等の説明文に「評価」が入っていない。	第2章については、各グラフ等の説明文に、「評価」を記載し、第4章については、方向性を記載	例) ④耐用年数を迎える管渠 「今後、老朽化した管渠の更新が増加していくため、費用も含めた効率的な対策が必要です。」	
4	第2章 グラフの変更	②人口と普及率の推移	②「全国及び阪南市の将来人口推移」に変更 ③「年間有収水量」を追加	—	
5	第2章 グラフの変更	③大阪府内の他自治体との使用料比較	比較グラフを削除し、表（2）で抜粋化	—	
6	第2章「現状と課題」について	記載なし	「現状と課題」について記載 (普及率、人口と水需要の減少、施設の老朽化、厳しい財政事情の課題を列挙)	—	
7	第2章表（1）の変更	事業概要（公共下水道事業） 令和元年度末時点 整備済人口、普及率、有収水量	表① 事業概要（公共下水道事業） R2年3月 整備済人口、普及率、有収水量	表(1) 公共下水道事業の概要 (令和元年度末時点) 処理区域内人口、下水道普及率、年間有収水量	
8	第2章グラフ⑤収益的収支、⑥資本的収支	合計値の記載なし	「合計」数値を追加	—	
9	第3章 基本方針	収支のバランスのとれた経営	収支の バランス のとれた経営	収支の バランス とれた経営	
10	第4章 タイトル	財政計画と今後の方向性	財政計画・試算と今後の方向性	—	
11	第4章 1. 投資計画 2. 財源計画	記載なし	1. 投資計画 人口減を踏まえ、市全域を整備することが困難であると考えられ、立地適正化計画も策定されたこともあり、新規投資の方向性とする旨を記載 2. 財源計画 主な財源目標（経費回収率73%以上等）を記載	—	
12	第4章の参考図のタイトル	参考図	参考図	阪南市下水道事業計画区域と立地適正化区域との関連図	
13	第4章 グラフ	グラフ⑦～⑩ グラフ内に目標設定	グラフ⑦～⑩ 目標設定を説明文に記載	—	
14	第4章 投資内訳の将来推移	説明文なし	説明文の追加	*詳細の記載は割愛	
15	第4章 経費回収率の将来推移	「使用料改定を実施しない想定」	「使用料の改定を想定していない」	—	
16	第5章 事後検証・更新	「出納検査などにおいて、目標の達成状況を確認し、住民及び利用者へ公表」	「目標の達成状況を確認し、住民及び利用者へ積極的に公表します。」	—	